

# 復興に駆ける！

第 37 号

平成 26 年 9 月 11 日発行

岩手県立

生涯学習推進センター

TEL 0198-27-4555

◇ 今回は大槌町教育委員会と当センターが主催した「ふるさと大槌学講座」を紹介します。

## 「第 12 回 ふるさと大槌学講座

## 民俗芸能の伝承と今後」



講師の橋本先生

「第 12 回ふるさと大槌学講座 民俗芸能の伝承と今後」が、8 月 30 日に大槌町中央公民館 大槌文化ハウスで開催された。講師は追手門学院大学地域文化創造機構特別教授の橋本裕之（はしもと ひろゆき）先生である。

橋本先生は、2008 年度から 2011 年度まで盛岡大学に勤務され、2010 年 5 月から本年 4 月まで岩手県文化財保護審議会委員や岩手県文化振興審議会委員も務められている。大阪に戻られてから、何度も本県に通い、沿岸部の民俗芸能の支援に奔走されている。これまで、支援側の企業や財団等と民俗芸能団体をつなげ、被災した各団体の道具や衣装などの整備を数多く手がけてこられた。

当日は定員を上回る 18 名の参加があり、「民俗芸能の伝承と今後」をテーマとし、各団体の現状と課題について座談会形式で話し合った。大槌町には数多くの民俗芸能団体があるが、「これまで集落ごとに行ってきた伝承活動が、かさ上げ工事に伴って集落自体がなくなり、今後の活動が難しくなる」「伝承活動を進めるうえで、学校との連携は欠かせない。部活やスポ少との兼ね合いが難しい」「町無形民俗文化財指定を早急に進めるべきではないか」などの課題や意見が出された。橋本先生からは他地域の事例をあげながら、解決に向けたアドバイスがあった。

参加した若者からは、「集落の民俗芸能をこれから復活させたいので、どのような支援制度があって、どのような支援の可能性があるのか知りたい」という声が聞かれた。

民俗芸能は、地域コミュニティの核となって住民を繋いできた。また、震災後は被災者の癒しとなった。

このような志をもった若者たちを支えていくことも復興支援の重要な部分であり、生涯学習に携わる者に課せられた使命であると、改めて考えさせられた。

（※本講座は、平成 26 年度学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業を活用して開催し、三橋が参加した）



課題解決を探る話し合い

連絡先

追手門学院大学地域文化創造機構

TEL 072-641-9723

橋本先生アドレス

Email : jabowa@nifty.com